

最優秀賞（臨床工学技士部門） 三春 摩弥

笑顔の外来 ～おうちっていいよね～

おうちに帰りたい、家族と一緒に過ごしたいと思うのは当たり前前のこと。しかし、医療的ケア児にとってはたくさん壁を乗り越えた上でのスタートになる。私は当院に勤務してから在宅人工呼吸器の子供達の在宅医療移行支援業務に携わってきた。出生前診断（しゅつぜんしん断）が広がる今、そして以前では助からなかった命が救えるようになった今、医療的ケア児は増加している。特に在宅人工呼吸器をつけた医療的ケア児は10年で10倍になっている。

当院では医療機器の選定やバギー・ベビーカーへの設置方法・初めてのお散歩・車での移動方法からCE（りんしょうこうがくし）（臨床工学技士）が携わっている。毎日の人工呼吸器ラウンドを通してご家族と接し、子供達にも積極的に話しかけ、一緒に在宅移行へ進んでいく伴走者として関わっている。当院では在宅移行後に1か月に1回小児科外来での回路交換を行っている。そこは私にとっては笑顔の外来。成長した姿をご家族と共有できる。1年に1

回は誕生日をお祝いする。生まれてきてくれてありがとう、私と出会ってくれてありがとうと感謝する大事な外来である。

医療的ケア児の成長はかなり個人差があるが、在宅人工呼吸器を離脱できる子、睡眠時や短時間での人工呼吸器に移行できる子がいるのも事実である。気管切開（きかんせつかい）している子は話せないと言われているが独自に発声法を身に付けて発声してくれる子、手話で会話してくれる子、手遊びを披露してくれる子、学校や放課後等デイサービスの様子を教え旅行に行ってきたと話してくれる子、その成長をご家族も嬉しそうに話をしてくれる。入院した時は普段の状況を把握しているのでその子の在宅移行へのゴールがわかる。主治医と全力で在宅へ向かって走っていく。

私はご家族が不安に思っているときには気軽に話しかけられるようなCEでありたいと思っている。そこから本音が聞き出せたらいいから。私は笑顔の外来で待ってるよ。

